

報道各社 御中

令和3年8月24日
大阪体育大学広報室

パラリンピック開会式 聖火の最終点火者を パリを目指す内田峻介さん（教育学部1年）が担当

東京2020パラリンピック競技大会の開会式が8月24日（火）、国立競技場で開催され、聖火台に点火する最終ランナー3人のうち1人を、教育学部教育学科1年の内田峻介さん（19）が務めました。

内田さんはボッチャ日本代表「火ノ玉ジャパン」の強化選手（BC4クラス）で、2024年パリ大会の出場を目指しています。今年4月、本学に入学。東京パラリンピックでボッチャ（BC4クラス）のコーチを務める曾根裕二・教育学部准教授（アダプテッド・スポーツ）が部長を務めるアダプテッド・スポーツクラブに所属し、ボッチャを中心にパラスポーツに取り組んでいます。

東京パラリンピックには、大阪体育大学から選手・スタッフで3名が参加します。教育学部1年の宇津木美都（うつぎ・みくに）さん＝競泳女子＝が学部生としては初めて出場。本学卒業生の山本篤・客員准教授＝陸上男子走り幅跳び＝は、夏季大会で4大会連続出場、冬季大会も2018年平昌大会にスノーボードで出場しています。

また、内田さんの介助は、大阪体育大学卒業生で、大阪府立東大阪支援学校教員の堀部陽太郎さんが務めました。



<内田 峻介> うちだ・しゅんすけ。2002年8月20日生まれ、山口県宇部市出身。ボッチャ日本代表「火ノ玉ジャパン」の強化選手（BC4クラス）。小学4年の時に水泳を始め、陸上を経て、山口県立山口南総合支援学校中学部2年からボッチャに本格的に取り組む。中学3年だった2017年、国を挙げて有望選手を発掘する「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト」に応募して1期生となり、以後、曾根准教授の指導を受ける。山口南総合支援学校高等部1年の2018年、日本選手権準優勝。2019年、ジャパンパラボッチャ競技大会出場。2021年4月、曾根准教授が在籍する大阪体育大学教育学部に入学。大阪府熊取町内で母と暮らす。将来の目標は2024年パリ大会の出場と、特別支援学校の教員になること。

※BC4クラス＝非脳原性疾患。脳の疾患に起因しない重度の四肢機能障害のある選手が対象。

※画像の提供を希望される場合は下記までご連絡ください

【大阪体育大学広報室】

大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1 TEL072-453-7021 FAX072-453-8818
担当・大坪、小崎 koho.users@ouhs.ac.jp